

Voice: 海外の中小企業金融機関等から寄せられた声

マレーシア中小企業銀行(SME銀行)のザリナ副頭取代理(2010年1月) (日本招へいセミナーに参加)



先般、財務省財務総合政策研究所(財務総研)の支援で、東京にある日本政策金融公庫国民生活事業(公庫)の研修施設で開催されたセミナーに、マレーシア中小企業銀行(SME銀行)から7人の職員が参加した。

この技術協力は、SME銀行における小企業および新規開業者に対する融資審査手法を改善し、融資審査期間を短縮することを主な目的としている。5日間のセミナーを通じて、マレーシアからの参加者は、新規開業の融資審査について理論と実践の両面から十分な知識を得ることができた。

また、公庫の支店における融資審査の過程を目で見て理解し、さらにその融資審査を支えるさまざまな仕組み(例えば、組織体制、信用リスク管理、情報管理・活用など)について学んだ。セミナーでは公庫の融資審査の仕組みをいろいろ学んだが、なかでも新規開業企業の評価に関しては、最良の手法と思われる知識を得ることができた。併せて、融資審査研修の充実も、融資審査に必要な知識を十分備えた職員を確保するためには極めて重要であることを学んだ。公庫の支店への訪問では、我々は、申込書の受領から融資審査、決裁、契約書の発行まで、効率的でスムーズな流れが存在することに気付いた。

今回、セミナーの所期の目的は達成されたと考えている。我々は、今後も財務総研と公庫の継続的なサポートがあれば、長期的にみても良い結果が生まれると考えている。

タイ中小企業開発銀行(SME Bank)のチョンチット総裁代行(2008年1月)

2000年、国際協力機構(JICA)の技術協力プログラムを通じて、国民公庫(現日本公庫 国民生活事業)は、当行(当時の「小規模企業金融公社」)に対して、適切な融資審査手法を確立するための技術協力を行ってくれました。その手法は、現在でも当行内で使用されています。

中小企業振興を目的とする金融機関からなるAPEC域内中小企業金融機関協力会議の設立により、国民公庫との協力関係はさらに強化されています。この会議は、2003年にバンコクで開催されたAPEC財務大臣会合の際に、当行によって提唱されたもので、金融機関のネットワークを通じてAPEC域内の中小企業を支援することを目的にしており、現在11の国と地域から、14機関がメンバーとなっています。



「開発金融機関国際CEOフォーラム」や「APEC中小企業金融機関会議セミナー:金融知識の共有による継続的な中小企業振興」といった様々な国際舞台の場において、中小企業金融分野で長年にわたって培ってきた経験を伝えてくれる国民公庫の活動に感謝を表します。

中小企業金融は、一般の商業ベースの金融とは異なる考え方が必要なので、日本において小企業を支援してきた国民公庫の長い歴史は、当行のような開発途上国の新しい金融機関にとって良い指針となるでしょう。我々は、国民公庫との更なる協力と中小企業の繁栄を望んでいます。

ベトナム社会政策銀行(VBSP)のハン頭取(2006年10月)

国民公庫(現日本公庫 国民生活事業)は、2003年1月に設立されたばかりのVBSPに対して、いち早く支援をしてくれた機関です。

2003年6月に技術協力内容について合意した後、これまで日本・ベトナム両国で合計6回のセミナーを実施してくれました。セミナーでは、講義だけではなく、実践的なロールプレイングやケーススタディも行われ、国民公庫の55年以上にわたる経験を分かりやすく伝えてもらっています。



国民公庫の技術協力が有益なのは、日本の貴重な経験をもとにしながら、ベトナムの商習慣やVBSPの手法に合わせた内容となるように努めていただいているからです。その結果、2005年末には、国民公庫の協力のもと、融資審査フォーマットやマニュアルが完成し、VBSPの全支店に導入することができました。職員育成にも使用できる融資審査マニュアル等ができたのは、VBSPにとって初めてのことです。

このことから、本プロジェクトは最も効果的なものであると言えます。さらに、2006年2月には、融資審査手法に加え、債権管理や創業支援についてのノウハウを伝える2年間の技術協力が決定しました。

日本の政策金融改革でも、国民公庫の小企業向け融資が政策金融として必要なものであることが認められたと聞き、同じ政策目的を持つ機関として自分のことのようにうれしく思います。今後も、国民公庫のノウハウをできる限り吸収するよう最大限の努力をしていくつもりです。

APEC中小企業金融機関会議のシンポジウムでの発言(2005年7月)



融資先企業数が133万件もあるということは驚嘆に値します。国民公庫(現日本公庫 国民生活事業)が、どれだけ日本の小企業に貢献しているかを証明している数字であると思います。また、その融資のほとんどが無担保で行われ、かつ機能しているという事実は、本当に素晴らしいことです。



また、国民公庫が、創業支援という審査判断が非常に難しい分野においても、積極的に融資していると聞いたとき、私は『銀行は、晴れた日にしか傘を貸さない』ということわざを思い出しました。国民公庫は、まさに『雨の日に傘を貸す金融機関』だと感じました。

「カンボジア小企業金融セミナー」に参加した受講生(2006年2月)

2006年2月、国民公庫(現日本公庫 国民生活事業)とカンボジア中央銀行(NBC)との共催で開催されたセミナーに参加させていただきました。

カンボジアの経営者は会計に関する知識が乏しい人が多く、財務資料を作成していない企業が多いため、財務面から企業を審査することが非常に困難です。そのため、ケーススタディ形式でセミナーを実施してくれたことが非常に参考になりました。特に、『財務資料のない企業』の具体的な審査事例を通じて、経営者へのインタビューや実地調査から売上や経費を把握する手法は、現在の業務にも役立っています。

単なる講義にとどまらず、グループディスカッションを行い、問題を解きながら進めていく国民公庫のセミナーのスタイルは、双方向的でかつ実務的な内容でした。

